

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
KA40A200		国際コミュニケーション A特研(Advanced Research in International Communication IA)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2			前期	月7	氏名 Chris White E-mail chris-white@oita-u.ac.jp 内線 6612											
授業の概要	This blended-learning course aims to develop students' abilities in English listening, presenting, discussing, and academic writing. A portion of the classes will be conducted via Zoom so students must have a laptop computer at all times. Students will be expected to take part in discussions, offer opinions, improve their academic writing, create a presentation, and take an online TOEIC exam.																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	Boost practical listening and note-taking skills																
目標2	Engage in speaking tasks																
目標3	Consolidate understanding of academic lectures																
目標4	Foster presentation skills																
目標5	Improve academic writing skills																
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 Orientation and placement quiz																	
2 Presentation basics (workshop)																	
3 Presentation basics (workshop)																	
4 Lecture - Mindsets, Locus of Control & Goal Setting																	
5 Discussion & TED Talk - The power of believing that you can improve																	
6 Discussion & Film I - Learning a Language																	
7 Lecture - Never too late to learn a second language																	
8 Discussion & TED Talk - World English Mania																	
9 Discussion & Film II - David Attenborough																	
10 Understanding and ideas BBC video I																	
11 Understanding and ideas BBC video II																	
12 Understanding and ideas BBC video III																	
13 Understanding and ideas BBC video IV																	
14 Understanding and ideas BBC video V																	
15 Final presentations																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	Extensive reading, peer consultation/evaluation, presentation rubric, critical analysis and discussion of a topic, forming and supporting opinions, task-based communicative activities.				工夫	Use of blended learning (Zoom/Moodle), foster ability to express opinions and discuss freely in English (pair/group)work.										
ラーニング	B:意見の表現・交換					その他の											
ラーニング	C:応用志向																
ラーニング	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	extensive reading, communication practice															
	事後学修	Extensive reading (150,000 words or approximately 20 minutes daily reading), logging work & quizzes moodle, participating in lectures via zoom and face-to-face (depending on Covid-19) developing a presentation, develop TOEIC skill and practicing academic writing techniques.															
教科書	Materials will be provided by teacher.																
参考書	Extensive readers (OXFORD Bookworms/Penguin Readers) located in the library. http://mreader.org/index.php (extensive reading website)																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	Presentation	30%															
	Discussion/Lecture homework	30%															
	Extensive Reading	30%															
	Attendance	10%															
注意事項	Classes are also held online via Zoom. Absenteeism/Lateness is not acceptable.																
備考	開講曜限については、初回ガイダンス時に調整します。																
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KA40A206		国際コミュニケーションIC特研(Advanced Research in International Communication IC)						対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1,2	経済学研究科 博士前期	前期	月6	氏名 矢野 英子 E-mail yano-hideko@oita-u.ac.jp 内線 7725												
授業の概要	英語の論文(英語圏の文化、社会、教育などに関する)を購読し、表現や構成を学ぶとともに、論文として分析する。 英語と英語表現の周辺文化についての視野を広げる。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	英語の論文の語彙、表現、文がわかる。																	
目標2	英語の論文の構造がわかる。																	
目標3	英語の論文から情報を読み取ることができる。																	
目標4	調べたことをまとめて発表する。																	
目標5	英語でレポートを書く。																	
目標6	自分の学習の進捗を把握し、計画的にレポートを進める。																	
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	Introduction																	
2	英語論文の構造																	
3	英語論文の表現 1																	
4	英語論文の表現 2																	
5	英語論文1購読1																	
6	英語論文1購読2																	
7	英語論文1購読3																	
8	英語論文1の分析とまとめ																	
9	英語論文2購読1																	
10	英語論文2購読2																	
11	英語論文2購読3																	
12	英語論文2の分析とまとめ																	
13	英語論文3購読1																	
14	英語論文3購読2																	
15	英語論文3購読3																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	ペア、グループで確認、話し合うなど協働作業を通して理解を深める。					工夫 その 他の	映像や視覚資料を使って理解を深める。										
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備	論文、関連資料を読んでくる。(15h)																
	事後	レポートをまとめていく(15h)																
	学修	発表の準備をする。(15h)																
教科書	授業の際に指示する。																	
参考書	授業の際に指示する。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	レポート1、2	45%																
	最終レポート	45%																
	平常点	10%																
注意事項	ペアやグループで話し合う活動にも積極的に参加できること。授業中の携帯電話は禁止する。																	
備考	授業形態は、状況に応じて決定する。 辞書を必ず持ってくること。																	
リンク																		
	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	海外の大学、国内の他の教育機関（小学校、中学校、大学、私塾）での教育経験、福祉機関での勤務経験
実務経験を いかした教 育内容	それぞれの経験を学生の英語指導および授業内での学生指導に生かすことができる。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
		基礎法学(The Basic Jurisprudence)					対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1	経済学研究科 博士前期	前期	火7	氏名 青野 篤 (Atsushi AONO) E-mail aaono@oita-u.ac.jp 内線 7726												
授業の概要	本講義は、法学の基礎を有さない学生が、大学院において法律関係科目を履修する際に最低限必要となる知識を修得することを目的としています。																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1	法の体系、法解釈の基本、判例・学説の関係を理解できる。																	
目標2	各法分野における法解釈の特徴を理解できる。																	
目標3	判例の分析・評価を行うことができる。																	
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	イントロダクション																	
2	条文とその解釈																	
3	各法分野における法解釈の特徴(民法)																	
4	各法分野における法解釈の特徴(刑法)																	
5	各法分野における法解釈の特徴(憲法)																	
6	法解釈と利益衡量論																	
7	法の存在形式、判例・学説の関係																	
8	各法分野における法解釈の例(民法)																	
9	各法分野における法解釈の例(刑法)																	
10	各法分野における法解釈の例(憲法)																	
11	判例報告(1)																	
12	判例報告(2)																	
13	判例報告(3)																	
14	判例報告(4)																	
15	まとめ																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	教科書の輪読と判例報告を行い、受講生が相互に議論する機会を設ける。														工夫	その	他の
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備	各受講者は、担当する事項について事前に調査し、報告のためのレジюмеを作成する必要があります。30時間。																
	事後	復習。15時間。																
教科書	山下純司・島田聡一郎・穴戸常寿『法解釈入門〔第2版〕』(有斐閣,2020)																	
参考書	松井茂記・松宮孝明・曾野裕夫『はじめての法律学〔第6版〕』(有斐閣,2020)																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	報告の内容および議論への参加状況	100%																
注意事項	本講義は、学部等で法学系科目を履修したことのない者を対象としています。 履修希望者は、準備の都合上、初回授業の前日までにメール(aaono@oita-u.ac.jp)まで連絡して下さい。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
KA40A205	日本の経済と経営(Japanese Economy and Management)						対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修(秋季入学者のみ)	2	秋季入学学生1年	経済学研究科	後期	月5	氏名 E-mail ymiya@oita-u.ac.jp 内線 7684						
授業の概要	秋季入学制度により入学した留学生を対象にして、日本経済や日本の経営に関する基礎的な知識や今日的な論点について理解を深めることをめざしている。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	日本経済の発展過程、特徴について理解する。											
目標2	「日本の経営」とは何かを理解する。											
目標3	今日の日本の経済や経営、地域に関する基本的論点を理解する。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	日本の経済発展(1)											
3	日本の経済発展(2)											
4	日本の経済発展(3)											
5	日本の経済発展(4)											
6	日本の経済発展(5)											
7	中間指導											
8	日本の企業経営											
9	日本の流通機構											
10	日本の地域(1)											
11	日本の地域(2)											
12	日本の地域(3)											
13	日本の社会政策(1)											
14	日本の社会政策(2)											
15	キャリア形成支援											
ラーニング	A:知識の定着・確認	グループ討論、意見の全体共有				工夫	その他の					
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備	指定文献学習(5h)										
	事後	文献学習、レポート準備(5h)										
教科書	とくに指定しない。											
参考書	授業のなかで適宜指示をする。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	100%										
注意事項	この授業は、秋季入学制度により入学した留学生を対象にしたものであり、秋季入学学生は必修である。春季(4月)に入学した留学生についても、履修することが望ましい。											
備考	変更が生じる場合は随時お知らせします。											
リンク	URL											

教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	キャリア形成支援についての課外講義を担当する非常勤講師は、研究科OBであり、職業安定行政に長らくかかわっている。
実務経験を いかした教 育内容	キャリア形成支援についての講義では、厚生労働省外郭団体の県組織のトップとして、近年の留学生グローバル人材への求人状況や、国内・県内における具体的な就職活動のノウハウについて講義していただきます。